

## 普通科学習活動の紹介「<sup>はつうま</sup>初午団子から探る地域の文化」【地歴科】

以前、本校のHPで紹介した「地域の古文書を読み解く」授業（選択日本史B）を受講した普通科3年生が、1月29日（金）4限に「日本史A」・「地理A」の授業で身近な地域について学習している総合学科の2年生に授業を行いました。古文書の読み方や、諏訪の森稲荷社の初午祭りに供えられる「初午団子」が蚕の繭の形をしていることなどを、板書しながら、分かりやすく教えることができました。

2年生に講義する3年生



古文書の読み方を優しく解説



3年生の生徒たちは、「普段は教えられる側だけど、今日は教える側で新鮮だった。大変だったけど、準備していた話がしっかりできて良かった。また、2年生も真剣に話を聞いてくれて嬉しかった。」と授業後、感想を語ってくれました。

続いて、3年生に教えてもらった2年生が、2月5日（金）5限に初午団子を実際に行ってみるとい授業を行いました。グループで協力しながら楽しく初午団子を作ることができました。この授業の様子は、中日新聞2016年2月7日に掲載されています。

初午団子を作る2年生



ちょっと大きめ、初午団子



その後、授業を通じて、初午祭りに興味を持った普通科3年生の熊崎冬生くんが、2月14日（日）午後1時から行われた稲荷祭に授業担当教員と一緒に参加してきました。

あいにくの雨天ということもあり、諏訪神社本殿の中で、御神事が行われました。各種の儀式が済んだ後、地域の方々と語りいながら、初午団子と甘酒を頂きました。

熊崎くんは、「毎年、祭りのちらしが家に配られていたことは知っていたけど、実際に行ってみたことはなかった。貴重な体験ができて良かった。」とっていました。

萩原町内に貼られたちらし



初午団子を手にとって



私たちの身近な地域には、世代をこえて受け継がれてきた文化が存在します。授業を通じて、生徒たちは、自分のたちの住んでいる地域の奥深さを感じることができたように思います。

※初午 …はつうま。2月最初の午の日。稲荷神社で五穀豊穰、商売繁盛などを祈願して祭礼が行われる。この日に伏見稲荷の裏手にある山に稲荷神が降り立ったことに由来。祭礼では団子（初午団子）が作られることが多く、養蚕が盛んな地域では、団子の形を蚕の繭に見立てて、養蚕の成功を祈願する。萩原町の稲荷社（諏訪の森）では、文久3（1863）年の建立時に、初午祭りで初午団子を持ち寄ることが定められた。

※稲荷祭 …下呂市萩原町にある諏訪神社境内に存在する稲荷社の祭り。稲荷社の神前に供物が饗され、宮司と氏子総代6名により、神事が行われる。半時ほどの神事が終わった後、甘酒や初午団子がふるまわれる。

御神事の様子

